

## 『登場人物』

- シャダイ・・・・▽旅人 二見マドル
- ◆ ミカル・・・・▽孤児院の娘 モーツアルトの娘 皇希
- エリーザ・・・・▽謎の占い師 小林裕輝
- ◆ シスターマリア・▽孤児院のシスター 藤本しほ
- ウリエル・・・・▽孤児院の青年 久保宏貴
- ◆ ラファエル・・・・▽孤児院の娘 元橋日向
- ◆ ガブリエル・・・・▽孤児院の娘 松嶺悠香
- パワー・・・・▽町の権力者の息子 矢ヶ崎敏光
- ◆ ルキア・・・・▽娼婦 胡元奏汰／武井茉衣香
- ヴィクター・・・・▽エノク出版の副編集長 矢ヶ崎敏光
- ◆ ケルプ・・・・▽エノク出版社員 ヴィクターの秘書  
松嶺悠香

- 
- ゼルハザ・・・・▽ベルゼブ出版の役員 カネッシー金子
  - グリゴリ・・・・▽ゼルハザの部下 小林裕輝
  - ダネル・・・・▽刺青の男 小林裕輝
  - パワーパパ・・・・ カネッシー金子
  - ◆ パワーママ・・・・ 元橋日向
  - ◆ 教会の民

へプロローグ

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

グレゴリウス歴1756年に誕生し、音楽家として生きた神の化身である  
しかしその一生は苦難の連続であったといえる

彼はなにと戦ってきたのか

自身を陥れる貴族なのか

己をむしばむ病か

それとも彼自身の運命なのか

彼は安住を許されなかった

終の棲家を得ることもなく、求める事もなく

作曲という、作品を作り上げる事に、その時間を、しいては命を、

生涯をささげ

35年という短い人生を過ごした

モーツァルト 彼の眠る墓標は誰も知らない 誰も見届けてはいない

見届けることが許されなかったのだ 彼の墓は無いに等しい

彼自身がそれを望んだとされている史実である

ゆえに どこへ旅立ったのかも 誰にも分らない

モーツァルト 彼は数々の作品を残し

そして

顔を見ることも、声をかける事もできなかった娘を残し  
どこへ旅立ったのだろうか

マリア これ・・・ミカルが書いたの？

ミカル ・ ・ ・ うん ・ ・ ・

マリア もっと見たいな ・ ・ ・ ミカルの作品

いつでも、書きたい時に、自由に書いてもらん

ミカル ・ ・ ・ うん ・ ・ ・

## 第1章

音楽…過去と未来を流れ、今に行き着く旅人

シャダイ 人は皆、旅人である。ここではないどこかへ行くため、あるいは帰るため

誰かを探し、誰かを待ち、今日も遠い町を歩き続けている

今日は晴れていて良かった、青空を幸せに感じるのであれば

心が晴れている証拠だ。この町の人々もそうであってくれば

よいのだが

今朝着いたばかりのこの町は、中々悪くない

懐かしさと程よい刺激が混在している

そのあなた、なかなか面白い魂をお持ちですね

なるほど神はあなたを遣わしましたか ・ ・ ・

この町はあなたの旅にとって重要なターニングポイントに

なることでしょう

シャダイ　・・・どの町にも変わった人間というものが存在する

エリーザ　ちよーっとちよーっと、あなた今、心でつぶやいてるでしょ、

私と会話しましょう、会話

シャダイ　私と？

エリーザ　そう私と

シャダイ　とても青空の素敵な町ですね

エリーザ　うーん、私と距離を置いてますねー

かかわりたくないオーラが満載ですねー

シャダイ　占い師の方ですか？

エリーザ　はい、エリーザと申します。長旅おつかれさまでした

シャダイ　エリーザさんは・・・

エリーザ　エリーザ

シャダイ　エリーザさんは・・・

エリーザ　エリーザって呼んで

エリーザ　エリーザさんは先ほど、この町が私にとっての

ターニングポイントになるとおっしゃいましたね

詳しくお聞きしてもよろしいですか

エリーザ　私にはね、その人を守護する天使が見えるのです

そして過去も未来も

あなたには資質がお有りのようだったので、

直接言っちゃいました

普段はもっと遠回しにいますけどね

シャダイ　資質とは？まさか私も将来あなたのように

エリーザ　そんな嫌な顔しないの

大丈夫、世間のいうそんな見え方はしないから安心しなさい

シャダイ　よく分かりませんが、とりあえず安心しました

エリーザ　人の一生は旅、どこから始まり、どこまで続くのか

行きたいのか、あるいは帰りたいのか

誰と出会うだろう、何を想うだろう

私たちは悠久の時を旅する旅人、あなたはそれに気付いてしま

ったのですね、シャダイ

シャダイ　！！・・・何故私の・・・

エリーザ　また会う時もあるでしょう。

そうそう、この町で起こる事は全て受け入れなさい

特に、今日の夜をきっかけに・・・ふふふ・・・

シャダイ　なんだったのだ今の人間は・・・また会いたいとは思わないが

出会ってしまうのならば、それは運命として受け入れよう・・・

あっ、しまった、一つ聞き忘れてしまった

私が町に着いてまずおこなう事が

ガブリエル　つとウっ！！

シャダイ　グワッ！

ガブリエル　道の真ん中突っ立てたら危ないよ、おっさん

シャダイ　若干蹴られたようにも感じたが・・・

ガブリエル　こんな場所で立ち止まったら危ないんだよ

ウリエル　分かっているって突っ込む君も大概ですよガブリエル

ラファエル　大丈夫でしょうか？旅の方

シャダイ　ああ、大丈夫です。ありがとう

ガブリエル　へえ〜おっさん旅人なんだ、どこから来たの？

そして何処へ行くの？私には関係ないけど！！！！

ウリエル　ガブリエル待つてください！

このままじゃ私達の方が変な人になってしまいます〜！

シャダイ ……私は変なのだろうか？

ラファエル いえ、素敵な方ですよ、それに人は自分のおかしなところを

隠して生きるもの

ですから、みんな真面目なふりをしているだけなのかもしれないま

せんね

シャダイ そういう君も？

ラファエル ……フッフ……ええ

シャダイ 失礼、これ以上は聞いてはいけないな

変わった子達だが、隠そうともしない感情は大したものだ

二人は行ってしまったが追いかけてなくてもいいのかな？

ラファエル ええ、この先にある教会へ帰るだけですから、

シャダイ 教会の方でしたか、ちょうど良かった

私は町に着いてまず教会に立ち寄るので

ラファエル そうでしたか、ご案内致します

シャダイ ありがとうございます、君は？

ラファエル ラファエルと申します

シャダイ ラファエル、良い名だ

確か「愛の天使」ではなかっただろうか

ラファエル あなたも旅人に似つかわしい名ですね、

「荒野を歩く者」シャダイ

音楽…再会の唱（ソウルメイト）

シャダイ 町に着いてすぐに幾つもの出逢いが私を待っていた

最初に感じた懐かしさと、程よい刺激に偽りはなかった

懐かしさの理由はラファエルと歩いている時に感じたのだ

シャダイ この香は……教会の方から漂ってくるようだが

ラファエル 果樹園がありますので

シャダイ まさに楽園だ

ラファエル あ……虹がさしましたね……

シャダイ うん……いつの日だったか、見た事があるようだ

ラファエル うん……私も……想った……

シャダイ そうか……

シャダイ きつとこの虹は、いつの日か、二人で観た虹

この出逢いは、「出会い」というよりも「再会」なのだ

いつだったか出会い、別れた人達との再会、私は再会の町に  
たどり着いたようだ

ガブリエル 遅いぞラファエル、遅すぎてトランプのババ抜きからジジ抜き

へと移行した程だ

ラファエル ごめんなさい、一つのゲームを飽きさせるくらい待たせてしま

ったのね

ウリエル 大丈夫ですよラファエル、でも、本当に少し遅かったですね

ラファエル うん、ゆつくり歩いてきたから……旅の方を案内してきたわ

シャダイ シャダイです

ウリエル あ、先ほどの……お怪我はありませんでしたか？

シャダイ はい、小指にしびれが残っているくらいです

ガブリエル その程度で済んで良かったね、私はガブリエル、ごめんね

ウリエル 僕はウリエルです。シャダイさん、この町はいかがですか？

都会とまではいえませんが、自然に恵まれながらも、それなりに娯楽も盛んです。あとは鉄道でも通れば便利になるのですが

シャダイ その程よさがいいのかもしれない、気に入ったよ

ガブリエル それにしてもミカルも大したもんだね、旅人が聞きに来る程になったか

ウリエル あ、本当ですね。隣町にも評判は伝わっていましたか

シャダイ なんの事だろう？私のはあの山を越えてきたので、隣の町からではないのだが

ラファエル 大変、シャダイ、早く礼拝を済ませないと

教会の民 おーい、ラファエル、ウリエル、ガブリエル

帰ったのなら手伝ってくれ！

ラファエル はい、今行きます

シャダイ ごめんなさい、私たちは準備があるので

準備？

ラファエル いい日に来たわね、ゆっくり楽しんでいって

ガブリエル なんだ、違ったのか、さて寝よう

ウリエル 君はどんな耳をしているんですか、さあ手伝いますよ

シャダイ 皆、教会へと駆け足で行ってしまった、

今日は何があるというのか

先ほどから礼拝者の数も増えてきました・・・

見渡すと、子供から大人、庶民から貴族のような人達まで

珍しいほどに様々な人種がいる

いつの時代もヒエラルキーと呼ばれる階級社会は無くならない中こういった風景は珍しい  
貴族階級の人々は庶民と礼拝をしたりはしない  
今日はいったい何があるというのだ？

音楽…ヒエラルキー幻想

貴族 A 楽しみであるなあ

貴族 B 楽しみですわね

庶民 A 楽しみだな

庶民 B 楽しんでいこう！

農民 A おら〜楽しみだ

農民 B 待ち焦がれるなあ

貴族 C 待ったかいいりましたわね

庶民 A ミカルの書いた最新作が本日上演！

庶民 C この前はどんな物語だったかな

貴族 B もう忘れちゃったの？

勇ましい青年が悪のドラゴンを退治するお話

しかし驚きだ、その青年は神の遣わした化身だったなんて

それだけではありません、片田舎の貧しい家に生まれ

富裕層からは差別迫害を受けて育った男が・・・

人々のために戦う

しかし旅の途中で偽物の英雄と言われしまう

さらには助けた人間からも詐欺師扱いされてしまったんだ

それでも青年の人々を救う意思は変わらない、

庶民B　むしろ悪を見破る力が研ぎ澄まされていく

庶民A　最後は壮大なラストシーン

庶民B　庶民を苦しめる王様の正体は悪のドラゴンだった

庶民A　青年はそれを見破り戦いとなる

貴族B　犠牲者を出さないために、愛する人はおろか、

貴族C　連れ添った仲間すらも置いてたった一人戦う青年

庶民A　待っていたのは悪のドラゴンとの相討ち、

貴族A　しかし次の瞬間、倒れた青年の背中には銀色の翼が生え、

庶民B　魔界へ逃げようとするドラゴンを捕まえる

貴族A　そのまま青年は天使となり、黄昏の彼方へ消えていったとき

貴族B　こうして国の平和は守られた英雄神話

庶民A　ヒーローってのはいるんだな

貴族B　ミカルの最新作、どんなお話かしら

全員　楽しみだなあ

シャダイ　なるほど話の大筋は分かった、

ミカルという人の作品が発表される日

というわけか、はたから聴いていても中々の作品のようだ、

しかし・・・

その青年が英雄となったのはいいが、残された仲間や愛する人

はその後どうなったのだろう？表向きの輝かしい話よりも

裏側の残された者たちの気持ちの方が気になってしまふ

子供　どこに行くの？

シャダイ　ハッ・・・

子供　どこに行くの？ねえどこに行くの？

シャダイ　どこに？どこに？・・・私は・・・私は・・・

子供　おとうさん、どこに行くの？

庶民A　家の戸締りを忘れてしまった、ちよつと家まで行ってくる

子供　ええ？もう始まるよ

庶民A　大丈夫、すぐに帰ってくるよ

子供　すぐにだよ、急いでよ、絶対だよ

シャダイ　君、一緒に行った方がいい、誰かが絶対に帰ってくるという保

証なんてどこにもないのだから、追いかけてなさい、

そばにいてあげるんだ

子供　おじさんどうしたの？

シャダイ　いいから追いかけるんだ！

子供　うわっ・・・お、おとうさん、待って

シャダイ　ハアハア・・・私には、残された者を気遣う資格は無い・・・

さっそく、一つの役目を果たしたようですね、シャダイ

シャダイ　君はエリーザ

エリーザ　あの人、あのまま一人で帰っていたら、死んでいました

死相・・・それも水難の相、帰り道、川にでも流されたのか・・・

でも子供と一緒に行かせたおかげで、

その死相も消えたよう・・・ありがとう

シャダイ　君は何を言ってるんだ

エリーザ　本来、私がするべき役目を代わりにしてくれてありがとうと

言ったのですよ

何から何まで救えるわけではないから、

たまに嫌になる時がある

みんな忠告しても「お前何言ってるんだ？」と変人扱い

むしろ私が忠告したから、

その行動をとってしまったともいえる

私の言葉も運命の一部だなんて、やってられない時もある  
自分の言葉がその人の運命の一部だと？

シャダイ エリーザ ええ、だから私達、言葉には気を付けないとね、

例えそれが心に有ろうと無かろうと・・・

シャダイ そんな事は・・・わかってる・・・

エリーザ それにしても逆ギレで運命変えちゃうパターンは初めて、

あんた持つてるねー

シャダイ 一つ聞きたい、君は毎回こんな感じで出てくるのか？

エリーザ それは・・・神のみぞ・・・知る話？・・・

シャダイ 出てくる気だろ、お前絶対出てくる気だろ

エリーザ とりあえず、今からミカル作品を楽しんで、

あなたならミカルを・・・やめておこう・・・

それでは楽しんでねー

今日はもう出てこないから、

シャダイ ・・・・エリーザ・・・不思議な人間だ、

話を聞いていると時折イラっとするが

心のつかえも取れていくようだ

ヴィクター いかげしましたか？旅の方

ケルプ お水です、どうぞ

シャダイ これは・・・おそれいます・・・

ふう、ありがとうございます

私はシャダイ、旅をしながらその土地で見聞きした事を詩に

込めております

何もお返しできる身ではありませんが、

よろしければお名前を聞いてもよろしいでしょうか

ヴィクター 私はヴィクター、エノク出版という出版社の副編集長をして

おります

この者は秘書のケルプ

ケルプと申します

ヴィクター あなたのおメガネにかかれば私達も詩にしていただけの

ですか

そうあれば光栄だ

シャダイ いえ、おメガネにかけて頂けるのは私の方です

出版社の方と知り合えるとは

ヴィクター まあまあ、堅苦しい事は置いておいて、

シャダイさんはどちらから来られたのですか？

シャダイ あの山を越えて・・・

ヴィクター それはそれは・・・

この町に流れ着くとは、運がいいのか悪いのか

シャダイ こうしてお水を頂けただけでも、

運が良いのではないのでしょうか

それに旅をしていますと、運というものは感じる自分の心次第

ではないかと思えます

ヴィクター 若いのに大したお方だ、今日は知ってここへ？

シャダイ いえ、礼拝に立ち寄ったつもりが・・・運が良かったようです

ヴィクター はっはっは、素晴らしい、

ミカルの作品はあなたの旅にとっても

良い刺激となるでしょうな

ケルプ ヴィクター様 まもなく始まるようです

ヴィクター シャダイさん、一緒に聴きませんか？ミカルの作品を

シャダイ それではお言葉に甘えて・・・

それにしても礼拝のつもりが作品鑑賞になるとは……  
だがこの作品、いや、ミカルとの出逢いがまさに  
この物語の始まりといえるのだ

観客達

ガヤガヤガヤ・・・ワクワク・・・ドキドキ・・・  
ガヤガヤガヤ

マリア

皆様、本日はようこそお越しくございました  
シスターを務めておりますマリアです

こんなにも沢山の方々にご来場いただき感謝しております  
さっそくですが、今回の作品をお楽しみいただきましょう  
ミカル

ミカル

観客 A

観客 B

観客 C

ミカル

はい。皆様・・・本日はようこそ・・・ミカル・・・です  
ミカル！  
よ！ミカル！頑張つて！  
し！静かに！  
あ、ありがとうございます・・・  
今から・・・作品を発表したいと思えます・・・

シャダイ

見るからにはかなげな少女がミカルだった  
挨拶もしどろもどろで、これで作品が発表できるのかと一抹の  
不安がよぎったが  
いらぬ心配であった

ミカル

「いつの日にか」

私は待つのが好き

この世界を見渡すと 目に映るモノ 耳に聴こえるモノ

沢山のモノが私を幸せにしてくれる

夜空を見上げれば幾千の星が、季節と共に無限のアートを

創りだす

今日見える月も毎日その形を変えて

欠けていく切なさ 満たされていく希望を教えてください

愛おしいものは全て時間が生み出してくれるから、

待った分だけ沢山の幸せがある

だから 大切な人を待つのも平気なの

いつの日にか 迎えに来てくれる その日まで

数多の生命 幾千の星 悠久の時間が

いつの日にか その言葉すらも

私に待つ幸せを与えてくれる

シャダイ

ミカルがプロローグを読み終えたあと、私は衝撃に包まれた

音楽・CALLING

♪宇宙という超感覚が地球を呼応させ 大地を通して五感を呼び覚ます音

楽♪

シャダイ

私は朗読を聴いている ましてや劇場に来ているのではない  
なのに 今、この空間は感じた事の無い変化をおこしている



空間でなければ、私の精神が新たな超意識に目覚めてしまったのか

物語を聞いているだけなのに、音楽が聴こえてくるのだ  
いや、音楽だけではない街の匂いが、人々の感情が流れ込んでくるのだ

この人はどんな想いでその言葉を放ったのか、  
その愛しみが、その哀しみが  
私の心に流れ込んでくるのだ  
あの温もりが・・・

### 音楽…竹田の子守唄

忘れかけていた、あの頃の温もりが・・・私を包み込む  
この感動を何に例えればいいのか、このミカルの作品に人々は酔いしれる

身分など関係無くこれほどの人が集まるわけだ

だが一つ、腑に落ちない事がある

これほどの愛に溢れた素晴らしい作品  
なのに、登場人物は誰一人として笑ってはいないのだ  
表向きは笑っているのだが、心が笑っていない  
物語はハッピーエンドを迎えても、それは本当に喜んでよい事なのか疑問が残る

### ミカル

皆様 ありがとうございます・・・ございました・・・

シャダイ 人々は感動から拍手をするのも忘れ、いまだに余韻に浸る者  
すらいる中ゆっくりと拍手が鳴り始めた

観客 (拍手)

シャダイ すると、一人、また、一人と、この世界へと戻ってきたのか、  
いつの間にか拍手は大きくなっていった

観客 (喝采)

シャダイ その時、隣に座るヴィクターはゆっくりと立ち上がり

ヴィクター 今回もダメだったか・・・ケルプ、帰るか

ケルプ はい、ヴィクター様

シャダイ そう呟くと二人は席を立ち教会をあとにしたので、  
私は出会った教会の前まで追いかけた

ヴィクター おお、シャダイさん、どうでしたかミカルの作品は

シャダイ とても感動しました、何かに例える術がないほどに  
ただ、あなたの呟いた言葉が気になったもので・・・

ヴィクター ケルプ、帰るか

ケルプ はい、ヴィクター様

シャダイ いえ、そこじゃなくて

ヴィクター 何か問題でも？私たちはただの副編集長と秘書だ

ケルプ ヴィクター様・・・

ヴィクター いや、ただの男と女というべきか

ケルプ ヴィクター様・・・

シャダイ この町の住民は人の話を聞かんですか？その前の言葉

ヴィクター 今回もダメだったか・・・

シャダイ そう、それ

ヴィクター いやいや、あまり気にせんでください

ミカルの作品はいつ世に出てもおかしくない

ただ・・・まだ早い・・・

シャダイ 今、世に出て完成すると、

もう登場人物が笑い合える日は来ない

ヴィクター ほほ・・・想った通り、大したお方だ・・・ケルプ私の名刺を

ケルプ はい、ヴィクター様

ヴィクター 何か困った事があれば私を訪ねてみてください

シャダイ ありがとうございます

しかし、何が起こるか分からないこんな世の中だ

笑顔で再会できればいいですが・・・

ヴィクター どちらでも構いません、あなたの事は気に入りました

それでは・・・ケルプ、行こうか

ケルプ はい、ヴィクター様

シャダイ そうしてヴィクターは去っていった

農民A いや〜いがあった〜いがあったなあ〜

貴族A 素敵な作品でしたわね

庶民A 心が洗われましたな

貴族B 誰かをずっと待てるなんて素晴らしいわ

農民B 野菜育てるのも待つようなもんだがらな〜

庶民B 次の収穫を楽しみにしてますよ

農民B 任せとけ任せとけ

貴族C それも楽しみですわね

農民C じゃあまた収穫祭の時はスポンサーよろしくな〜

貴族C お任せあれ庶民の楽しみは貴族が支えますわ

庶民A ワインもビールも飲み放題！

庶民B チーズにステーキ七面鳥！

庶民C お〜庶民に生まれて良かった〜

貴族には金出させときゃいいもんな

庶民の言葉にはトゲがあつて嫌ですわ〜

庶民A そもそも何故、収穫祭に霜降り肉を出さねばならないのか

庶民達 俺たちが食いてえからだ！

貴族A 庶民を敵に回したくはありませんわ〜

ウリエル 皆様、ありがとうございます、お氣をつけてお帰りくだ

さい

ラファエル またお越しく下さいませ

ガブリエル じゃーねー

貴族達 じゃーねー

ウリエル ガブリエル、じゃーねーは無いですよ

ガブリエル いいんだよ、心が伝われば敬語なんて

ラファエル なんの心？

ガブリエル うーん・・・特に無し

ラファエル たとえば人様を、お・む・か・え・る お迎える心とか

ウリエル ああ、それは素敵ですね、みんなにお迎えの心があれば、

この町も発展していくかもしれない

ガブリエル みんなたいそうな心を持つてるんだなあ、あ、おっさん

おっさんまだいたのか

シャダイ やあ、君達はここの人間なんだな

ガブリエル そうそう、だから準備なんて面倒くさい事もやらされるんだ

ウリエル いいじゃないですか、そのくらい

育ててもらえただけ良しとしましょう

シャダイ うん、読み書きや、言葉使いがすっかりしているのも孤児院にしては珍しいと思うが

ラファエル それはマリアの教育のおかげね

特に礼儀作法は叩き込まれたわね

ガブリエル あなた達みたいな孤児は、どうせどこへ行っても、倫理道徳も知らない無法者と言われ続ける人生なんだ、ならせめて、礼と法だけは誰よりもわきまえておきなさい、だってさ、

非道いだろ？うちのシスター

シャダイ そうかな、それを愛と呼ぶのかもしれないが

そうそう、ミカルも君達の仲間なんだよな、

会ってみたいのだが紹介してもらえないかな

ウリエル ミカルに・・・ですか？

ガブリエル おっさんが？ダメダメ無理だよ帰りな

シャダイ そうか・・・同じ作家、詩人として感銘を受けたので挨拶がしたかったのだが

残念だ

ガブリエル うんうん、潔さが肝心だ

ウリエル シャダイさん、申し訳ありません

ラファエル 待って、せっかくミカルの作品も気に入ってもらえたのに

礼拝もできないまま帰すなんてあんまりよ、

私マリアに頼んでみるわ

あんまり会わせたくないけど・・・

シャダイ 無理を言って申し訳ない

ラファエル ううん、マリアにね・・・

シャダイ ラファエルの言葉が気になったが・・・

やはりあれだけの作品を創れるようになると、ファンも多くなるから大変なのだろうか

ウリエルとガブリエルの警戒は思った以上に大きかった

マリア お待たせしました、旅のお方、ミカルに面会を希望と・・・  
初めましてシスターマリア、シャダイと申します

うおおお！！マリアー！！！！

ダネル 子分A

子分B 紳士にいきましよう、BE ジェントルマン！

ダネル 離せ！マリアー！今日こそ俺の愛を受け取ってくれ

このダネルが、マリア！君のために一曲作ってきた、

「MY MARY」

ワンツースリーフォー

『MY MARY』

マリアと出会って恋をして

マリアと抱き合う夢を見て

とても大事にしたいのに 壊れて届かぬ歌がある

I don't know I don't know

OH MARY MARY MARY MARY MARY  
「M・A・R・Y」 MY MARY

作詞…ダネル

作曲…フランス民謡♪パパからもらったクラリネット♪

マリア 不合格です、どうぞお帰りください

ラファエル だそうです、お引き取りを、

あと、早くお洋服を着なさってください

ダネル このネイティブな想い、裸の魂を届けたいんだ！

ネイティブソウル！OHネイティブソウル！

子分A ダネルさん、裸はネイキッドです

子分B ネイティブは「天然」とかそういう意味で・・・

子分A 裸はネイキッドです、それから、マリアさんについても・・・

ダネル うるせえ、俺に構うな！

子分A B すいません！

シャダイ このダネルという男は、よほどマリアという女性が好きなのだ

ろう

背中に大きく「M・A・R・A」マリアと刺青が彫ってある

しかし、「MARA」だとスペルが違わないだろうか

正しくは「MARY」だ。

「MARA」ではマラと呼べしてしまう

この男は背中に大きくマラと書いて何がしたいのだろう

ダネル マリア、もっといい歌を書いてまた来るぜ

シャダイ 彼は大きくマラと書かれた背中に夕日を浴びて、帰っていった

マリア 旅のお方、失礼致しました

シャダイ いえ、とんでもございません

マリア それでは旅のお方、ミカルに面会を希望と・・・

シャダイ はい、改めまして、シスターマリア、シャダイと申します

マリア うん、合格

シャダイ はい？

マリア 合格、ラファエル、部屋に通しておいて

シャダイ ダネルとは違いあっさりと了承され、マリアは去っていった

ラファエル はあ・・・旅の方、どうぞこちらへ

シャダイ は、はい

教会の民A あ、ラファエル、もしかして奥の部屋？

ラファエル はい

教会の民B あ、ラファエル、また、マリアの？

ラファエル そーです

教会の民C あ！ラファエル！

ラファエル シャラップ！

シャダイ あ、あの、ラファエル

ラファエル はい？！！

シャダイ うっ・・・えーっと・・・私はあの場で良かったのだが

部屋にまで通されるとは、ミカルに会うのはそんなに大変なのか？

ラファエル いえ、今はもうその話とは違いますよ、どうぞゆっくり

シャダイ いったいどういう事なのだろうか、

教会の奥にある修道士の宿舎へと通された

音楽…月光

……どのくらい待ったのだろうか

日も沈み、月明かりが窓から指し始めた、

今宵は満月、古来より満月の夜には事故や犯罪が増えるという  
が、それは月光によるエネルギーが細胞の一つ一つに染みわた

り狂気にも似た衝動を与えるのだろうか……

その時、ノックが鳴り響き、ドアを開けると、シスターマリア  
の姿があった

マリア 夜も遅いので、今夜はお泊りください

シャダイ んんっ！……

音楽…

そう告げたあと、私はマリアに唇を奪われてしまった

驚きを隠せなかったが、口の中、深く濃厚に絡み合う感触と共  
にエリーザの言葉が頭をよぎった

「この町で起こる事は全て受け入れる事」 そして

「今夜がきっかけとなる」の二つだ

やはり、満月の夜には事故が起きる……

私はそのまま身を任せた

音楽…ポリュウムアップダウン

シャダイ 聞きたい事がある

マリア 何？私の事？野暮

シャダイ いや、ミカルの事だ

マリア 冷める事を聞くのね

君との時間はまさに樂園だ、だからこそ想い出してしまった  
神の住む樂園をエデンというが、エデンには身分などあるはず  
もない

神の元に全ての命は平等に、平等すらも超えた大きな愛に包ま  
れているのだ

樂園にいるとは、きっとこういう事をいうのだろう

そう想わせてくれる、それがミカルの物語なのだ

マリア 分からない

シャダイ 分からない事はないだろう、

ミカルの作品の前に全ての人は平等になる

ベットの上で他の女の子の話をする神経が分からない

私はミカルの事を何も知らないが……

今は私の事だけを考えてって言うてるの

こうして女性に頬をつねられるのは幾年ぶりだろう、

それだけで幸せだ

マリア あなた、想った以上にひどい男ね

シャダイ いいわ、もうなんでも聞いて

シャダイ 樂園だよ、だからこそ想ったんだ

ミカルには人を楽園へと誘う力がある、君のようにだからこそ私は、我に帰る事ができた  
あまりにも快樂が過ぎて、我に帰ってしまった、あの瞬間まで私は、

「いつの日にか この楽園のような世界に来ることが  
できるのであれば、死など怖くはない」そう想ってしまった  
私のために命を捨ててくれるの？

マリア  
シャダイ

ああ、それも悪くない、  
だが、そう想った自分に疑問を感じたのだ  
だから我に帰る事ができた  
もし、楽園に憧れ、死をも超越する事が、人間が開くべき悟り  
なのであれば、

今、この生きている瞬間はいったい何になるというのだ  
生きる事にもっと苦しんでもよいのではないか

大きく息を吸える喜びを感じるのは、  
苦しみあってこそそのものだ

笑いたくない奴は笑わなくていい

それでもいつの日にか、いつの日にか・・・

マリア

シャダイ

決してミカルの力が間違っているわけではない、  
そう想ってしまった私の心に問題があると想うのだ

神はおそらく存在する、だが、だからといって楽園に行ける保  
証はどこにもない

マリア

シャダイ

私は・・・楽園に入れるにふさわしい人間ではないのだ  
フフフ・・・あなたは独りなのね・・・  
そう・・・なんだ・・・私は独りなんだ・・・

マリア  
なら、甘えなさい・・・女にできる事なんて、このくらいしか  
ないもの・・・

シャダイ  
私は・・・独りなんだ・・・どこに行っても・・・誰と出会っ  
ても・・・

共に笑えても、それでも・・・  
遠くの彼方から、そして私の中から・・・

「お前は独りだ」と、誰かが笑ってやがる・・・

マリア

シャダイ

よしよし、よしよし・・・  
私は何を求めているのだ・・・何処に行きたいのだ・・・  
何処へ帰りたいのだ・・・

マリア

シャダイ

よしよし・・・よしよし・・・  
あああああああ！！！！！！！！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

私はそのまま果ててしまった

そこは神の楽園なのか、悪魔の森なのか

わからぬままに、どちらでもよいままに、私の心は丸裸に  
なってしまった

気が付くと窓際の月明かりは朝日へと変わっていった  
まどろみの中、マリアは服を着ながら呟く

マリア

ミカルの物語・・・素敵な作品だったでしょう  
彼女の父親はモーツァルトなの

シヤダイ モーツアルトの娘が何故、孤児院に……マリアは去り

私はそのまま眠りについた

音楽…あの日の僕の決断は船出と呼べる程誇らしいものではなかった

青年

どこに行くんですか、僕も置いていくんですか

一緒に行こうって、あの時誓ったじゃないですか

守らせてください、守る事さえ許されませんか、貴方は……

どこまで……

女性

貴方はどこまで嘘つきなの

私はいいの、どれだけ嘘をつかれても

どれだけ待たされてもいいの

ただ、貴方が笑ってくれればそれでいいの

これ以上自分に嘘をつかないで、怯えないで、

笑う事に怯えないで

どうして笑顔で独りになるの？どうして、黙るの？

どうして黙って独りを選ぶの？どうして、ねえ、どこに行くの

子供

どこに行くの？お父さん、すぐに帰ってくるよね、

またお母さんとケンカしてくれるよね

私、お父さんとお母さんのケンカが好きだよ、

叩いてる時のお母さんも

叩かれてる時のお父さんも嬉しそうだもん

お父さん、わざと怒らせてるよね

お母さん、わざと怒ってくれてるんだよ

二人とも子供みたい、たまに私が独りに思えちゃうくらい、

でも、そのくらい、笑いながら怒ってるお父さんとお母さんが

大好きだよ

お父さん、どこに行くの？笑いながら哀しまないで、お父さん

お父さん、どこに行くの？

ゼルハザ

どこに行くんですか、まだ話は終わってないじゃないですか

ラファエル

もういい加減にしてください！帰ってください！

ゼルハザ

そんな大きな声を出さないで

ラファエル

どうかお引き取りを

シヤダイ

なにか外では言い争いをしてるようだ……

夢から覚めた私は、昨夜の出来事も夢だったのかと思ったが、

確かにマリアの残り香が、部屋に、私の体に残っている……

朝と昼が交じり合う刻に私は目を覚ました

ゼルハザ

そう言わず、ミカル先生に合わせてくださいよ、

1回だけ、1回だけでいいから！

ラファエル

ミカルに合わせる事はできません

ゼルハザ

大丈夫、大丈夫、1回でいいから、1回でいいから、

一瞬でいいから

ガブリエル

しつこいなあ、ダメだって言ってるだろ

ゼルハザ

ああ、ガブリエルさん、この前はどうも、差し上げたオレンジ

はいかがでしたか？

ガブリエル ああ、うまかったよ

ラファエル ガブリエル・・・

ウリエル ラファエル、どうしたんですか

ゼルハザ どうもどうも、はじめまして、私こういふものです、

おい、グリゴリ

グリゴリ はい？

ゼルハザ 名刺だよ名刺

グリゴリ ああ、肩書きを示した紙ですね

ゼルハザ 早く渡せ

グリゴリ はいはい

ウリエル 「ベルゼブ出版 取締役 営業部長 ゼルハザ」

ゼルハザ はい、よろしくお願い致します

あなたは・・・ウリエルさんですね

ウリエル ご存知なんですか？

グリゴリ はい、教会の人の顔と名前は全部調べてますから

ゼルハザ おいおいおい、オホン、

営業先の方々のお名前は存じております

この度はミカル先生の作品を我がベルゼブ出版から出させて

頂けるといふ話で参りました。

ラファエル そんな話は聞いてません

ガブリエル そうだ、聞いてないぞ

ゼルハザ いや、しかし、そちらのガブリエルさんが贈り物を快く受け取

ってくれたじゃないですか、しかもおいしかったと

だから私はてつきり

ガブリエル ウリエルも食べたぞ

ウリエル え？

ガブリエル ほら、あの時、一緒に食べたじゃないか

ウリエル あ、あの時ガブリエルがくれたオレンジ、とてもおいしかった

ですよ

ゼルハザ ああそれはよかった太陽のオレンジと言いましてね、

1個あたり銀貨666枚もするんですよ

ラファエル 銀貨666枚？

ウリエル へえーそんなにするんですか

素敵な差し入れをありがとうございます

ゼルハザ いえいえ、贈り物、「オ・ク・リ・モ・ノ☆」

受け取っちゃったのね

ゼルハザ 奮発して3つ入れて置きましたので

ラファエル 銀貨1998枚！

ゼルハザ さすが！計算がお早い

ガブリエル ン？二つだったぞ？

ゼルハザ え？そんなはずは

ああ、それ、一つもらいました

ゼルハザ なんてお前が食うのよ

グリゴリ 美味かったっすー

ガブリエル なあ、金額に見合ってるがどうかは知らないけど、

美味かったよな

ゼルハザ そうそう、美味しかったですよ、美味しかったですよ、

ウリエル 分かりました、じゃあお話お聞きします

ゼルハザ ですからね、ミカル先生の作品を我が社で出版したいんですよ

うん、それは無理ですね、実は一度みんなで相談もした事あ

るんですけど、員反対でした



ラファエル ベルゼブ出版といえば、低俗な作品で有名ですよ

ゼルハザ 低俗だなんて、娯楽ですよ娯楽、世の中の男性のお役に立っているんですから

ウリエル はい、僕は低俗だなんて思ってませんよ、ひらたく言えばエッチな本ですから、必要な時は必要です

グリゴリ ですよね、僕は寝る前と朝起きた時に読みます

ゼルハザ 元氣だな、お前

グリゴリ 若いですから

ウリエル ただ、嫌がる作家さんを契約で縛って強引に書かせているとか・・・

ゼルハザ そんなのただの噂ですよ、みんなちゃんといってお金もらって書いてくれます

なんの問題にもなってます

グリゴリ 間違いない

ガブリエル ようは契約させてるから、あとから文句いえないようになってるんだろ

そういうの一番嫌いなんだよな、なんかあれば契約契約、やだやだ

ゼルハザ しかし、結婚も契約じゃないですか、パパとママが契約に従って家庭を作り、子供を作り・・・

ガブリエル パパもママもないから分らないや

ゼルハザ ああ、そうか、ここは孤児院でしたね、しまったしまったただね、これだけは言っておきます、

契約済の女性には不思議な魅力がありましたね

屋下がりのママさん、人妻っていうんですけどね

この言葉、我々が考えたんですよ、あ、ヒルガオが咲いている

ウリエル なるほど、そうやって論点をずらして、のらりくらりと話を流

し、サインまでこじつけるんですね

ゼルハザ どうですかね、まあ、今日はミカル先生にご挨拶できれば帰りますよ

実際、私もと契約するのはあなた方ではなく、

ミカル先生なのですから

ミカル先生がその口でお断りいただけるのであればまだしもね

ラファエル あなたは断るタイミングすら与えないでしょう

ゼルハザ 何を根拠に、あのね、これでも気を使ってる方なんですよ、例えば、待ち伏せでもしちやえはいくらでも会えるわけだし

でもほら、ミカル先生の過去を思えば、

あんまり大の男と二人になるっていうのもね

ガブリエル おい！

ラファエル ゼルハザア！！！！

ゼルハザ ぐ、ぐえ！

ウリエル ゼルハザさん、その言葉、二度と発しないようにお願いします

ゼルハザ あ・・・あ、はい・・・おい、助けるよ

グリゴリ え？だって失礼な事言ったのはこっちじゃないですか？

ゼルハザ チームワークを乱すな

グリゴリ チームっていうかユニットですね、あ、コンビか

ゼルハザ どっちでもいんだよ、オホン、

では、ミカル先生とご挨拶だけでも

我が社の未来のために、ミカル先生には健全な作品を書いて

欲しいのです

あ・・・ミカル！

ミカル あの・・・ミカル・・・です  
ラファエル ミカル！

ミカル ラファエル・・・私は大丈夫だから・・・  
ゼルハザ おく、これはこれはミカル先生、はじめまして

ゼルハザ ベルゼブ出版のゼルハザです  
ミカル あの・・・みんな困ってるので・・・私は・・・まだ・・・  
出版とか

そういうのは・・・ただ・・・みんなが喜んでくれるから・・・  
笑顔になつてもらえるから・・・書いてるだけで・・・

ゼルハザ その笑顔になれる作品を、多くの方々にお届けするのが我々の  
役目なんですよ

ミカル ・・・・でも・・・ゼルハザさんが来てから、みんな笑顔じゃな  
くなるんです・・・

ゼルハザ 根も葉もない噂話というのも困ったもんですね  
ガブリエル 噂話じゃなくて評判ね

ゼルハザ あ、評判じゃなくて、風評だ、風評被害  
ウリエル ゼルハザさん、話は簡潔にお願いします

ゼルハザ ふう・・・ミカル先生、私どもと契約をお願いします  
あなたの才能、そしてお父さんがモーツァルトである事も話題  
性となり、大ヒット間違いありません

お金も十分にお支払い致します  
ミカル先生、YES or NO？

ミカル ・・・・NO・・・ごめんなさい・・・

ラファエル そういう事です、お引き取りを  
ウリエル もう来ないでください

ガブリエル 二度とね

ゼルハザ はあく・・・分かりました、しょうがない  
ウリエル では

ゼルハザ では、皆さん、出て行ってください  
ガブリエル は？何を言ってるのこイツ、出て行くのは

ゼルハザ あなた達なんですよ、この孤児院、及び教会を支援している資  
産家さんが、先日援助を打ち切ったのはご存知ですね

グリゴリ 地主さんは、さっさと売ってしまいたかったらしいですね  
ゼルハザ ただほら、教会なんか建つてると、売りに売れないじゃない  
ですか

ラファエル 教会なんかとはなんですか！  
グリゴリ まあまあまあ

セルハザ それを資産家さんが支援、接待してくれてるから、まあしょう  
がなしに、と

グリゴリ ところが先日、援助が打ち切られた  
ゼルハザ そ・・・で！我々がこの土地の所有権を購入したんですよ、  
つまり？

グリゴリ つまり！この土地は我々ゼルゼブ出版の物です  
ゼルハザ ・・・・ナイスコンプレイ・・・

グリゴリ どもども  
ウリエル なんて事ですか・・・

ゼルハザ 権利書もこちらに、まあ、皆さんのおっしゃるとおり、  
我が社は風評被害に困ってますね

でもこれ以上悪くなくても大差ありません  
この教会と孤児院は、我が社の倉庫として使用しましよ

いや、娼婦の館にした方が儲かるか・・・  
ラファエル 信じられない・・・あなたは本当にこの国の人間ですか？

ラファエル

ゼルハザ あ、もしかして、神への冒涇とかそんな話ですか？

大丈夫、大丈夫、もし本当に神様なんてものがあるのなら  
なんで孤児なんかが存在するんですかね

なんで差別迫害が無くならないんですかね

なんでこうもポッコポコ人が死んでいくんですかね

それは、神様もそうした事を認めてるって事なんですよ

救いなんかねえんだよ・・・

ウリエル あなた・・・もしかして・・・

ゼルハザ ・・・・なので、あなた方も神なんか頼らず、  
一人での上がってみてはいかがでしょうか

ミカル ・・・・あの・・・今の話・・・

ゼルハザ ああ、ミカル先生、この度は残念です

こちら先生の執筆環境は変えたくないので、契約して頂  
ければ、契約金代わりにこの土地の権利書を・・・と思ってい  
たのですが・・・

ミカル 本当ですか？

ゼルハザ はい、権利書の話ね。

ウリエル ミカル！ダメだ！ゼルハザさん、あなたの考えはわかりました  
だからこそ、言わせてもらいます

一人でのし上がるまでに、どれだけの方が関わりましたか

たくさん作家も関わってきたんじゃないんですか

あなた作家の気持ち分かっていますか？

作家にとって作品は、自分そのものなんです

自分よりも自分なんです

真面目な振りも、世間体も、何もかも取りつくりう事なく、

作家の心が、哀しくもろい裸の心が、そのまま映し出されてい  
るんです

ガブリエル 何熱くなってるんだよ、ウリエル

ウリエル 痛っ！ガブリエル！

ガブリエル 私にも言わせるよ

作品にはね、自分はこんなヤツが好きなんだっていう事が

こんなヤツが、こんな世の中が嫌いなんだって事がモロバレに

書かれてんだよ

こんな事で傷ついて、こんな事で嘘をついて、こんな事で塞ぎ

込んでさ・・・

どれだけ自由に生きてるヤツでも、作家にはかなわないん

だよ

大切なものは何か、愛しているものは何か

それが不器用なくらい遠まわしだったり、あきれくらりに単

純だったり、それでも純粹に描かれてるんだよ

ウリエル 作家にとって作品は、人々への最大の挑戦状であると同時に

最高のラブレターなんですよ！

ミカル ウリエル・・・ガブリエル・・・

ラファエル そのむき出しの心は、ちよつと触れただけでも簡単に壊れ  
てしまう・・・

それを・・・人は平気で、作品を否定して、作家を否定して、  
迫害するんです

あなた

あなたの会社は、何人の作家を壊したんですか

自ら命を絶った人もいる・・・

ウリエル 僕たちは、ミカルの作品に救われた、これでいいんだって、

一生懸命生きていたら、いつか笑える日が来るんだって、

ミカルに教えてもらったんです、ミカルは僕らの恩人なんです  
そんなミカルが、あなた達によって傷ついていくんだなんて、

我慢がなりません！

ラファエル お金があれば、土地は売ってもらえるんですよ・・・じゃあ  
このお金を手付金にしてください

ほう、孤児院の方には結構な額だ・・・

ゼルハザ ああ、そういえばラファエルさんは接客業をしていましたね、  
素敵な接客業を

ミカル先生が集中できるようにと、補助金で足りない分は、  
みんなには内緒であなたが・・・泣かせる話じゃないですか

ミカル ラファエル？

ラファエル 私が：：どれだけかかって、必ずお支払いします、だから：：  
お願いします

分かりました、おい、数えろ

ゼルハザ ひ、ふ、み、よ、ウー、リユー、チー

グリゴリ ふむ・・・まあ全然足りませんが、今日はこれで帰りましょう

ゼルハザ しかし分割手数料もありますので、毎回この10倍はご用意く  
ださい

ガブリエル 人の気持ちって、届かないヤツには届かないんだよな  
悪魔だな、お前

ウリエル 正確には墮天使ですよ、墮落した天使、それが悪魔の正体です。

グリゴム がつつり嫌われちゃいましたね

ゼルハザ でもね、まっとうな金額だと思いますよ、不動産ですからね。  
ラファエルさん、いつかあなたのお店にいった際は

素敵なサービスを期待しています

ではミカル先生、考えが変わった際はいつでもご連絡ください

名刺に住所書いてますので

ゼルハザ DEAD or ALIVE それでは

ウリエル ラファエル・・・いくら渡したんですか・・・どうして・・・

ラファエル 貯めていたお金

ガブリエル 渡す事なんてなかったのにさ

ラファエル 大丈夫、また貯めればいだけだから

ウリエル キリが無いですよ、こんな事・・・

ミカル ごめんなさい・・・みんな・・・

ウリエル ミカル、ここはありがとうでいいんですよ、

それにもうミカルだけの問題じゃないですから、気にする

事は

ありません

さて、僕も働こうかな

ガブリエル ああ、お前売れそうだな、好きな奴は好きだと思っぞ

ウリエル そっちですか・・・うーん・・・うーん・・・

ガブリエル マネージャーしてあげるよ、マージンは半分な

ウリエル それは良心的ですね、7割くらい取りそうな君が

ガブリエル そうそう私の血は良心でできてるんだよ

ラファエル というわけでラファエル、その店・・・私もいくからさ・・・

ガブリエル は無理

ラファエル 大丈夫だって

ガブリエル 無理、無理、あなた確実に初日でお客さん蹴飛ばす

ラファエル 無理、無理、あなた確実に初日でお客さん蹴飛ばす

ミカル

というわけで、お金の話はこれでお終い

みんな、……ありがとう……私には……

お金も無いし……体も張れないけど……次は……絶対……

私が守るよ……

ラファエル

ミカル……

シヤダイ

私はここから見ていただけだったが……私の出る幕ではない

私には事の行く末を見届ける事しかできない……いや……

彼らと深く干渉する事が許されない……そういった感覚が……

私の足を掴んで離さなかったのだ……

ゼルハザが帰ったあとにマリアが帰ってきた

その隣には身なりの整った男を連れて

その男はパワーという青年で、この町の資産家であり権力者の

息子らしい

ガブリエル

パワー……

パワー

や、やあ……

ガブリエル

「やあ」じゃないよ！どの面下げてここに來れるんだよ

パワー

すまない……

ラファエル

なぜ……あなたの父親は、教会への援助を打ち切ったの？

マリア

ラファエル、やめなさい

ラファエル

ごめんなさい……でも……

ガブリエル

パワー、何うつむいてるんだよ、なんか答えろ

ミカル

やめて……パワーを責める事じゃ……ないと思う

ガブリエル

まあ、そうだけど

パワー

いや、俺を責めてくれ、俺のせいなんだ……

ガブリエル もう、なんなんだよ一体

ミカル

ごめん……パワーと話がしたい……

パワー

ミカル……

ミカル

パワー……行こう……

シヤダイ

ミカルとパワーは教会の庭へと向かったようだ

そういえば、私はまだミカルと挨拶をしていないが

どうやらタイミングを逃してしまっただろう

タイミングを逃したのは私のせいではない気がするのだが

とりあえず今後の動向も含めて、一度マリアに相談しようと

試みたが

マリア

ああ、ミカルには言っといたから

テキトーなタイミングでヨロシク

シヤダイ

と、あっさり流されてしまった

このまま旅に出るわけにもいかず

しばらくここにいてもいいだろうか と尋ねると

マリア

あの部屋そのまま使っているよ

居候分は働いてね、野良仕事ヨロシク

シヤダイ

と、旅人に堂々と仕事を押し付けた、別にいいのだが、

昨晚あんな事もあったわけだし、ここは普通

マリア  
何も無いところですが、旅の疲れが癒えるまでしばらくお泊り  
ください

快適♪ 快感♪ 快楽の宿♪

お泊りはリゾート孤児院マリアのお部屋をクリック★  
もひとつおまけにダブルクリック★

シャダイ  
と、もてなされてもいいのではないかと思ったが贅沢はよそう  
私は「一回寝た女は俺の女」

といった事で誇るような男ではない  
しかしこのあと、教会を後にするまで、マリアは私の部屋に来  
る事はなかった  
繰り返すが、マリアと最後に交わした言葉は

マリア  
あの部屋そのまま使っていいよ

居候分は働いてね、野良仕事ヨロシク

シャダイ  
である、一応、毎晩それなりに綺麗にして待っていた自分が情  
けなくもあり、男としての自信も失いかけたが

ラファエル  
マリアはね、気に入った男がいると誘惑するの、  
一度征服した男には興味なくなるんだけど

シャダイ  
というラファエルの言葉を聞いて安心した  
どうやら背中にマラの刺青を彫った  
ダネルという男もそうらしい、

ダネル  
マリア！あの夜の事が忘れられないの！

シャダイ  
どうやら彼は抱かれるとどんどん好きになっていくタイプの  
ようだ

私はおそらくマリアとダネルの中間のタイプだと思う  
まあ、そんな事はどうでもよいが、ダネルとは友達になれそう  
なので、機会があれば一度酒でも酌み交わしたいものだ  
・・・なんか無性に人恋しくなってきたのは気のせいだろうか  
誰かと話したい、この際あの謎の占い師エリーザでもいいく  
らいだ  
そうだラファエルとは気が合いそうだ、ラファエル

ラファエル  
ごめん、今から仕事なの、それから旅の方、  
あまり馴れ馴れしくされても困りますわ

シャダイ  
と、マリアと会ってから  
彼女の態度が少々冷たくなった気がする  
あの空気のように自然だった懐かしさは  
どこへいったのだろう

ラファエル  
ただいま

シャダイ  
おかえりラファエル、疲れただろう、一緒に・・・  
ラファエル  
なら話しかけないで！

シャダイ  
私もそれなりに人生を歩んできたが、未だに女性というものが  
よく分からない

一応ここまでの事は整理しておきたいのだが  
街に着いてからの私は

「何かに巻き込まれた」としか思えない、しかし  
一夜明けた今日現在の扱いは一体なんなのだろうか  
まあ、これも全て受け入れるという事なのだろう

さて、話を戻すと

この教会と孤児院は、町の権力者であるパワーの父親の援助で  
成り立っていたようだが、ある日を境に援助を打ち切ったらし  
い。そのため教会の皆は期日までにその土地から出て行かねば  
ならない

解決方法は

・多額の分割金を支払い続ける、か  
・ミカルがベルゼブ出版と契約する、か  
の二択という事らしい

個人的には、ミカルとパワーの関係が気になるところだ

ミカル  
パワー  
ごめんね・・・みんな、悪気は無いの・・・  
すまない・・・こんな事になってしまっ

ミカル  
パワー  
おとうさんに、何かあったの？

ミカル  
パワー  
いや、何も・・・なにかあったのは・・・俺の・・・

ミカル  
パワー  
・・・言わなくていいよ・・・

ミカル  
パワー  
ミカル・・・

ミカル  
言えない事もあるよね・・・言わなくていいよ・・・

私ね・・・パワーに憧れていたの・・・  
パワーは、これは違うって思ったら・・・  
必ず声に出して言うの

世の中の人みんな、これは正しいんだって言うじゃない  
でもパワーは、正しいって思う事じゃなくて、

それは違うんじゃないかって思う事に一生懸命になる・・・  
私は・・・こんな性格だから・・・そんなパワーに憧れていた・・・  
だから・・・何も言わなくていいよ・・・

パワー  
ミカル  
俺・・・父さんに・・・ミカルと結婚したいって言ったんだ  
え？・・・

パワー  
反対された・・・そのせいで・・・援助が打ち切られた・・・  
だから・・・俺のせいなんだ・・・

音楽・・・パワー家の晩餐

執事クルト  
旦那様、パワー様が参られました

パワーパパ  
パワーよ、お前もそろそろ妻をめとれ

相手はコルネリウス家のお嬢さんだ

パワーママ  
あなた、それは素敵な縁談ね

パワー  
父さん、待ってくれ、俺はまだ結婚なんて・・・

パワーパパ  
パワー、男たるもの結婚し子供を作り、

家庭を持ってこそ一人前なのだ

パワーママ  
そうよパワー、あなたなら立派な夫になれますことよ  
自信を持ちなさい

パワー なら、結婚相手は自分で選びたいんだ

自分が幸せにしたいと想った人と結婚したいんだ

パワーパパ もしかして、そう想った相手がいるのか？言ってみる

パワーママ パワーが選んだ女性、さぞかし立派なお家の・・・

パワー ミカル・・・なんだ・・・

パワーパパ ミカル・・・その娘は・・・

パワーママ まさか孤児院の・・・

パワーパパ 馬鹿者！何をいうかと思えば孤児院の娘だと！

パワー 生まれは関係ないだろ？

パワーママ おおいにあります！

そんな孤児の血が我が家系に入るだなんて

パワーパパ なのためにお前を視察に行かせたと思ってるんだ！

今までもこれからも、民衆から支持を得るための援助だ！

親子二代で信頼を勝ち取ってこそそのものだったのに

お前が、その孤児院の娘と結婚だと？

もうそんな教会に援助していく価値などないわ！

パワー 父さん！待ってくれ！

執事クルト パワー様、お部屋へお戻りください

パワー 離せ！父さん、話を聞いてくれ！父さん！

・・・・・・・・・・・・・・・・

ミカル パワー・・・

パワー 父さんは、町民の支持のために・・・自分の地位を守るために

援助をしていたんだ・・・だから・・・俺が余計な事を言

わなければ・・・

ミカル・・・すまない・・・俺は・・・結婚じゃなくてもいいんだ・・・

ミカルを守れば・・・それで・・・なのに・・・俺が・・・

もう・・・苦しまないで・・・辛かったね・・・ごめんね・・・

パワー ミカル・・・

音楽・・・ミカルの旅立ち DREAM LONG

ミカル 私は・・・もう・・・十分だから・・・

みんなの言葉と・・・パワーの言葉があれば・・・

生きていける・・・

家族を・・・大切に・・・さようなら・・・

パワー ミカル・・・ミカル・・・

ガブリエル ミカル！

ウリエル ミカル！ダメだ！

ラファエル ミカル！私がかするから、みんなでなんとかかするから！

行っちゃダメ！ミカル！

ミカル みんな・・・今度は・・・私が・・・みんなを守る番・・・

教会の一同 ミカル！

ミカル ゼルハザさん・・・ミカルです・・・

ゼルハザ これはこれはミカル先生、お待ちしております

ミカル 契約を・・・

ゼルハザ ありがとうございます、それではここにサインを



ミカル これでは教会は・・・  
ゼルハザ はい、これが権利書になります

契約金代わりという事でどうぞ

そうそう、ラファエルさんから頂いた手付金は返しておきます

ミカル ・・・・ありがとうございます・・・

ゼルハザ 私、思ったよりいい人でしょ？

では、これからは作家とマネージャーの関係です

二人三脚で頑張っていきましょう

ミカル みんな・・・さようなら・・・

シャダイ こうして、周囲が反対する中、ミカルは契約を決めた

教会は守られたが、ミカルは出ていき、

出版された後も孤児院に帰って来る事はなかった

エリーザ 運命とは世知辛いものですね

シャダイ 今更現れたかエリーザ

エリーザ みんな深く考えすぎ

ようは嫌な奴と手を組んじやったーって話でしょ

視点を変えれば、教会も守られて、プロデビューも出来て、

そんな悪い話じゃないでしょ

作品を出す事で確かに傷つく事もあるかもしれない

でもプロになるってそういう事なんだから、洗礼です

プロの洗礼

人の人生なんて終わる瞬間にならないと分からないもの、

それが良かったのか、悪かったのか・・・でも

シャダイ 良かったと思えないと・・・あまりに・・・みじめだ

エリーザ それでも生きていて良かった、そう思えるように努力して生きるのが人間

一生懸命生きるってのはそういう事なんですよ

人の人生に、私の靈感なんてそこまで関与できません

できるとすれば・・・

シャダイ 私か・・・

エリーザ この後シャダイはどう動くのか・・・後半に続く

シャダイ というわけで、しばしの休憩をとろう

音楽…休息の一時

## 第2章

音楽… LOVE & PEACE

ずっとずっと先、それはもう気の遠くなるかのような遙かな未来

ある小さな国のお話です

それは国と呼ぶにはあまりにも小さな国でしたが、自然の恵みに溢れ、

ふるさとを愛する民、民を愛する王様、民も王様の事が大好きでした  
この国の素敵なところは、民一人一人、髪の色も、肌の色も、みんな違う事  
でした

顔も違う、背丈も違う、着ている服から、食べる物、はたまた信じている神  
様の名前や形までみんな違ってはいるのに、王様はいつも「僕たちは同じだね」  
と民に語りかけておりました

そんな小さくも愛に溢れた国に、一人の女の子が生まれます

黒髪に青い瞳のお姫様は、民からも深く愛され、みんな幸せに暮らしており  
ました

しかし、その幸せも長くは続きません

隣にある大きな国の王様が、小さな国の自然の恵みが欲しくなり、  
攻め込んできたのでした。争いを嫌う心優しい民も、ふるさとのために、

大好きな王様のために立ち上がります

王様は愛する家族に「すぐに帰ってくるから待っててね」と告げ  
友達と仲間と大勢の民と共に、大きな国の王様に立ち向かいます  
しかし、国と国の境い目にさしかかった時、

「ここからは僕一人で行くよ」とみんなを置いていくのです

小さな国の王様は、大きな国の王様にこうお願いをします

「僕が出て行くから、これからはみんなを守って欲しいんだ」  
と、そう言って

小さな国の王様は独り、誰も知らない、何処かも分からない、遠い場所へと  
旅立ちました

それから小さな国は大きな国の一部となります

長い長い年月をかけて、自然の恵みが無くなり始めた頃、その国の民は  
みんな同じ髪の色、肌の色になっていましたとさ

そうそう、黒髪に青い瞳のお姫様はどうなったか

実は、大きな国の王様は、小さな国の王様の家族だけは許さないつもりで  
いたので

ところが、みんな違う姿形だったのと、小さな国の王様は、民と一緒に生活  
をしていたので

どの子が王様の家族なのか、大きな国の王様には分からなかったのです  
小さな国の王様の願いはかないましたが、一つだけかなえられなかった

いえ、果たせなかった約束は家族に告げた「すぐに帰ってくるから待って  
ね」だったそうです

遠い遠い未来、それはもう気の遠くなるかのような遥か先のお話です

ゼルハザ ミカル先生、ご苦労様です

この物語、「LOVE&PEACE」ですか

何度も言いますが、ラストシーンを変えて欲しいんですよ

ここはやっぱり、大きな国の王様が負けちゃう事にしましょう  
なんだったら急に血を吐いちゃって実は病気だったとか、

そんなんでいいから、最後に正義は勝つ！ってすっきりしたい  
じゃないですか

え？できない？あ、じゃあね、あとね、外人同士と一緒に生活するなんてあるわけないじゃないですか  
ましてや家族なんてねえ

ちよつと世の中と人生舐めすぎですよ

いいですか、人生を舐めてるって事は、

読者を舐めてるって事なんですよ

設定とラストシーン、書き直しといてください

もう締切なんで、今日中にお願ひします

え？できない？あんだねえ、作品をなんだと思ってるの？

二人三脚でやっていこうって約束したじゃないの

約束破るわけ？

もういいや、こっちで編集しとくよ

これで売れなかつたら最悪だわ

損害賠償請求させてもらうからね

おい、グリゴリ、いつものゴースト君に連絡して。

ミカル

笑いたくない奴は笑わなくていい

いつも夢に出てくる人がそう語りかける

私は・・・いつも・・・笑顔を大切に生きてきた

だって笑わないとみじめなもの・・・

両親はいない・・・帰る場所もない・・・

きつと入れるお墓もない・・・

だから・・・せめて・・・笑って生きる事にした

なのに、どうして笑っちゃいけないの？

どうして？おとうさん・・・

ルキア

ミカル・・・ミカル・・・ミカル？

あんだ大丈夫？

相変わらずポーっとして、ご飯食べた・・・食べてない・・・

せめてオレンジだけでも食べなさいよ

・・・オレンジ・・・嫌い・・・

果物全部？

オレンジだけ・・・

ルキア  
じゃあ他のでジュースにするから、にんじん、大丈夫？ほうれ

ん草、OK？

これをりんごで、と、あ、りんご無い

ちよつと買ってくるから待ってて

館の支配人  
おう、ルキア、客だ

ルキア  
今から買い物、他の子をつけといて

館の支配人  
全員埋まってんだよ、お前が無理ならミカルだな

おい、ミカル、次は倒れるなよ

ちよつと待ってよ、まだ無理だって

体調だって良くなってないんだから

あーもう分かった、すぐ行くから

館の支配人  
急げよ、お得意さんなんだからな

ルキア  
ミカル、ジュースちよつと待っててね、何も食べないんだつた

ら、せめて横にでもなつてよ

ミカル

・・・タタター♪・・・タタター♪・・・タタター♪・・・

タタタータタタータタター♪・・・

・・・タタター♪・・・タタター♪・・・タタター♪・・・

タタタータタタータタター♪・・・  
(交響曲第40番 ト短調)

パワー

やりたい事やればいいじゃないか、  
やりたくない事をやり続けるよりも、  
やりたい事をやり続ける事が、本当はずっとずっと大変な  
事だと思うんだ

曲げたらだめだ、妥協したら妥協したものにしかならないし、  
いつのまにか妥協してしまう自分になっていってしまう  
俺もそんな自分にはなりたくないし、ミカルにもそんな  
自分になって欲しくない  
とてもとても、大変な事なんだけど、ミカルにはそうあって欲  
しいな

マリア

あなたの本には魂が込もっているわ  
魂の込められた作品にはねその人の過去も未来も教えてくれ  
る不思議な力があると思うの  
幸せな未来に導けるように暗示してくれて  
不幸な未来を避けるようにも教えてくれる

ヴィクター

君がちゃんと笑えるようにならないと、作品はずっと笑わない  
はまだ

作家をやりたいのなら、たくさん恋をしなさい  
誰かを好きになり、一人の女性として誰かを愛しなさい  
愛する事を恐れてはいけない  
人を好きになる事を恐れてはいけない

マリア

自信を持ちなさい、自分が創ったものに自信を持ちなさい

作品はいつでも、頑張ったね、頑張ってるね、頑張っていきな  
さいってあなたを励ましてくれるから、  
私？私にとってはあなた達がそうだから・・・  
さあ、みんなで作ったルール覚えてるでしょ、  
どんな時も晩ご飯だけはみんなで食べる事！  
さあ食堂に行きなさい！

ミカル

・・・はい・・・いただきます・・・美味しい・・・

ルキア

ただいま、あつ、食べてる、どう？お味は？

ミカル

美味しい・・・でもちょっと辛い・・・

ルキア

それはね、大人になると美味しく感じてくるのよ

ミカル

一緒に食べよう・・・

ルキア

いいの？いただきます、うっゴメン、辛すぎた、辛っ！

ミカル

ゴメン、ハチミツでマイルドにしよう、うん、美味しい

ルキア

あんたよく食べたわね

ミカル

うん、でも美味しいよ・・・

ルキア

あ、そう

ミカル

マリアも辛いものとか苦いのが好きだったから・・・

ルキア

マリアってシスターの？

ミカル

うん、お酒が大好きで、

ルキア

辛いのはビールによく合うって言ってた

ミカル

シスターがビール飲むの？

ルキア

うん、酔うとみんなに絡んでくるの、

ミカル

口癖は「ファックユー」と「ホーリーシット」

ルキア

どんなシスターよ、これで手癖が悪かったら完璧ね

友達になれそう

ミカル

・・・うん、なれると思う・・・

ルキア

まあ私は人見知りだから、仕事でもない人とまともに話せないけどね

ミカル

・・・そんな風には見えないけど・・・

ルキア

あんたは特別、私と交わした契約、忘れてないでしょうね  
作家なんでしょ？

「いつか私を主人公にした物語を書く事」

それまでは、あんたをこの部屋に置いて、あんたに付く予定の

客は全部私が引き受ける

だからあんたとの関係はただのビジネスなの

ミカル

・・・ごめん・・・まだ・・・全然書けなくて・・・

ルキア

あー、いーよいよいよ、いつでも、

やりたくない事をやって生き続けるより

やりたい事をやって散々いわれる方がマシなもの

書きたい時に、書きたくなったら書いてね

もっと綺麗に！私をもっと綺麗に書いて！

って散々言っただけから

ミカル

・・・フフ・・・うん・・・

ルキア

ハハハ、やっと笑った。よし、ジュース作るって

ミカル

あんまり苦くしないでね、それだけは苦手なの・・・

ルキア

大丈夫、大丈夫、ハチミツたっぷり入れるから

私甘いのが好きなの

ハッ！！！！

ミカル

あはは、子供だあ

ルキア

うるさーい！なら木の実もいっぱい入れてやる！

ミカル

やめてー！苦ーい！

ルキア

さっき以上の唐辛子もー！

ミカル

やめてー！辛ーい！

ルキア

オーホホホホ！！！！

館の支配人

お前らどんだけ騒いでんだ！客に丸聞こえじゃねーか！

ミカル

ゴメンナサイ

ルキア

サーセン

館の支配人

おお、ミカル元気出たみたいじゃねーか、もっと食べ食べ！

知ってっか？

東方のジャポンって国ではな、「氣」っていうエナジーを表す

文字の中にはライスの「米」って文字が入ってたんだ

病は氣から、元気があればなんでもできる！

元気になって、勇気を持って、本気で生きたきや食べ食

え！

はーい

ミカル

へえ、ジャポン、いつか行ってみたいね

館の支配人

ルキア、今日はもういいぞ、さっきの客からプレゼントだ

オペラのチケット2枚、あの野郎ルキアと店外デートする気だ

ったから言っただけ

「バカヤロー！金とチケット置いてまた来やがれ！」ってな

というわけで、オペラのチケットが2枚手に入った

ミカルと行って来い

客に会ったら会釈くらいはするんだぞ

はいはい、じゃ行ってきまーす

ルキア

フンフンフンフン♪

何着ていこうかな、あ、ミカルのドレスが無い、私のドレ

ミカル  
ルキア

ス、バストが大き過ぎてあんたに入らないもんね  
うん、ウエストもガバガバ  
やかましい！

ミカル

よし、まだ時間あるから、ドレスも買いに行こう！  
いいよ、そんなお金無いし、このままで

ルキア  
ミカル  
ルキア

お金はあんたが稼いだお金があるじゃない  
それはルキアが二重に働いてるから・・・  
いーの、あたしが代わりになってるだけで、  
帳簿ではあんたの仕事になってんのよ

契約でそうなってるんだから、今更変えられないでしょ  
契約なんていいように利用してやればいいんだからさ  
いい服を着て、いいオペラを見るのも私を綺麗に書くための勉強  
強でしょ  
これも仕事のうち！割り切って！さ、行くよ！  
フンフンフンフン♪

### 音楽…悪の輪廻

ゼルハザ  
グリゴリ

おいグリゴリ  
はい？

ゼルハザ  
グリゴリ

アイツに連絡とって  
アイツ？

ゼルハザ  
グリゴリ

デミウルゴスのゴーストやってたアモンだよ  
あ、アモン先生ですか？

ゼルハザ  
グリゴリ

アイツこういうの、うまくやるから  
は、はあ・・・

ゼルハザ  
グリゴリ

なんだよ、不満なの？  
いえ、ただ、著者はどうしますか？

ゼルハザ  
グリゴリ

そりやあミカルだろ

ゼルハザ  
グリゴリ

別物で、ミカル先生の名前を使うんですか？  
しょうがないだろ、書き直したくないって言ったんだから  
ったく、ここまで頑固だとは思わなかったよ

グリゴリ  
ゼルハザ

頑固っていうより、プライドじゃないですかね  
はあ？孤児にプライド？

グリゴリ  
ゼルハザ

いや、俺もよく分からないんですけど、そんな生まれだからこ  
そ譲れないものもあるんじゃないかなって

金持ちのプライドなんて、しょーもないもんだけど  
貧乏人のプライドって、人間の尊厳にかかわってたりしま

すか

らね  
・・・  
あ、すいません、作家さんて、みんな変な人ばかりなんで  
あとあと面倒な事にならないようにしたいってゆう  
会社の心配してるだけです、すいません  
名前・・・変えた方がいい？  
まあ、例えばペンネームとかにしておけば  
後々どうにでもなりますし  
・・・じゃあ、ミーカールとかにしとく？  
全然変わってねー  
それなりに考えたつもりだけども・・・

ゼルハザ  
グリゴリ

ゼルハザ  
グリゴリ

ゼルハザ  
グリゴリ

ゼルハザ  
グリゴリ

ゼルハザ

グリゴリ あのさ、なんでお前、いつも楽しそうなの？  
そうですか？

ゼルハザ ドライな顔してるんだけどさ、なんかその顔の向こう側が楽し  
そうなんだよな

グリゴリ 実際楽しいですよ、っていうか笑えてきます

俺、クソみたいな仕事してんなーって、

アホな事やってんなーって、

人間ねー、落ちるとこまで落ちちゃうと笑いごとなんです

よ

笑いごとじゃないんですけど、っへっへっへ、ただの笑いごと  
なんですよ

ゼルハザ ・・・なあ、うちってさ、やっぱ低俗かなあ

グリゴリ そうですね、正直最低だと思えますよ

ゼルハザ 実はさ、ミーカール先生クビにしちゃった

グリゴリ うわー、また？

最低、取って奪って無くなったらポイ、無くなったらポイ

ゼルハザ 俺らこういう事を繰り返してる気がするんだよな

グリゴリ どうしようもないですよ、自分から選んでるような気もしま  
すけど

空気入れ替えまーす

ゼルハザ おい、まぶしいんだよ！さっさとカーテン閉めろ！

グリゴリ ああ・・・なるほど・・・俺たち多分

光がまぶしすぎて、まっすぐ見られないんすね

音楽…恋する女はいい女

ルキア ファンファンファン♪

娼婦A あら、ルキア、素敵なおドレス、まぶしい！

ルキア ルキアフラッシュ！

八百屋 ああ、目が、目が、

ルキア ルキアフラッシュ！ & バーニング！

八百屋 熱い！熱い！と思ったら、ルキア！今日は一段とまぶしいなあ！

お出かけかい？

ルキア 友達とちよつとそこまで

町人A ルキアーその子誰？

ルキア 友達

町人B あれ？ルキア、妹なんていたっけ？

ルキア だから友達だってば！ルキアプロミネンス！

町人B ああ！まぶしい！

ルキア あーもう、あんたが珍しいせいで中々進まないじゃない！

ミカル 私じゃなくて、ルキアに話しかけると思うんだけど・・・

ルキア もういいや、その店入ろう

店員 いらっしやませ

ルキア この子のバストに収まりそうなドレスを☆

店員 かしこまりました、こちらなどはいかがでしょう

ミカル カワイイ

ルキア いいね、じゃコレで

店員 ありがとうございます

ミカル あの、色違いで、バストが大きいのもありますか

店員 はい、ございます

ルキア 何見栄を張ってるのよ

ミカル ううん、ルキアの、あ、ウエストも大きいので

ルキア あんた・・・

ミカル 私のお金でしょ？好きに使わせて

店員 ありがとうございます

ミカル オソロだね

ルキア こ、こ、こういうのやめてくれる？

し、仕事しづらくなっちゃうじゃない

ビ、ビジネスパートナーには・・・

程よい・・・距離感ってもんがね

ミカル これも仕事のうち、割り切って、割り切って

ルキア あんた、言うようになったね

ミカル 元気ですかー！

ルキア 元気でーす！よし、いざ劇場へ！フンフンフンフン♪

町人C ルキア！お友達と素敵な恰好してどこ行くの？

ルキア オペラー！

ミカル ルキア、よっぽどオペラが好きなんだね、

チケットもらった時からずっと嬉しそう

ルキア フッフッフ、ミカル、あなた恋をした事ある？

ミカル ・・・・一度だけ・・・

ルキア 私も一度だけ、初めてオペラを見に行った時、

あの人にハートを打ち抜かれてしまった

バーンからのキュンからのポツ

ルキア あー、偏見、完全なる偏見、その人はいたって普通、

ホントどこにでもいそうな普通の顔

でもあんな人、他にいないと思う

それ以降、一度も会えてないんだけどね

でもいつかまた、会えるかもしれない

それだけで嬉しいの

・・・私ね・・・オペラ女優になりたかったの

でも、両親の育児放棄にあっちゃってさ

生きていくにはこんな仕事するしかなかった

でもなんか、忘れられなくて、ある日オペラを観に行ったんだ

そしたら・・・

分かった、オペラの俳優さんだ

ブブー・・・劇場に入ることすらできなかった・・・

ホラ、あたし、これでも人気ナンバーワンの娼婦だし、

それでも心だけはいつだって女優なのよ

舞台には立てなくても、やりたい仕事じゃなくても最高の

の

がしたいじゃない

だから、せめて人前だけでは最高の演技をしてやるって決めた

の

それが例えお店に来た客でも、最高の演技で、満足して帰って

欲しいじゃない

そしたら人気爆発

もう人気過ぎて、知ってる人も多くなったのかな

劇場の受付でこう言われた

「ここは娼婦の来るところじゃない」

って・・・入れてもらえなかった・・・

・・・ひどい・・・

### 仕事

ミカル  
ルキア

劇場受付  
ルキア  
ミカル



ルキア　でもね、そこにいた男の人が、受付にこう質問したの  
パワー　「娼婦が入れないなら、娼婦と寝た男も同罪ですよね」

ルキア　じゃあ、多分、あの人とあの人、それから僕も・・・  
入れませんよね。一度でも娼婦にお世話になったんだから」  
ルキア　もう、周りの貴族が大騒ぎ、一緒にいる奥さんが

貴族婦人　「あなたー！」  
ルキア　旦那さんは  
貴族夫　「違うんだー！」

ルキア　の修羅場。さらには受付の男性にも  
パワー　「あ、あなたもだ、おかしいな、  
もう劇場に入っちゃってますね」

劇場受付　「なんで知ってるんだ？あ・・・」  
劇場もぎり　「へえ、そんな所行くんだ」

劇場受付　「え、あ、いや、その」  
ルキア　「って、もうみんな大慌て、したら受付の男がついに  
劇場受付　「お嬢さん、私の勘違いでした、申し訳ありません、  
どうぞお入りください」

ルキア　「って、通してもらえた  
ミカル　すごい人だね  
ルキア　それだけじゃないの、その男の人は最後に  
パワー　「すいません、僕も勘違いしていました、皆さん、僕の人違い  
でした、本当に申し訳ありません」

ルキア　「って深々と頭を下げていた・・・  
もうどうしたらいいか分からなくて、  
ただ立ち尽くしているだけの私にそと・・・」

パワー　「女性に頼る男と、そんな男を相手にしてくれる女性、

ルキア　僕は女性の方が素敵だと思います」  
ミカル　「って・・・だから、その人は私の恩人なの  
また会えたら、ちゃんと向き合ってお礼を言いたいなあ  
今日、会えるといいね・・・」

ルキア　「どうしよう、会っちゃったら、また動けないかも・・・  
その時は私も一緒に立ち尽くしてあげる  
せめて応援くらいしなさいよ！」

ルキア　「お母様、早く早く、痛い！えーん痛いよ」  
貴族の子供　「もう前くらい向いて歩きなさい！」  
貴族の母　「ねえ、大丈夫？」

ルキア　「恐れ入りま・・・あなた！触らないで！汚らわしい  
娼婦ふぜいが、劇場に入れるだけでもありがたいと思いなさい！  
い！」

しい　「もっと隅っこを歩いたらどうなの、娼婦のクセにずうずう  
ルキア　「おかげで子供がぶつかってしまっただわ  
申し訳ありません」

ルキア　「ねえお母様、娼婦って何？  
貴族の子供　「それはね  
貴族の母　「一生懸命働く素敵な女性という意味だよ  
パワー　「な！」

ルキア　「でもね、一生懸命だから汗もかくし、辛い思いもする  
君のお母様はね、君に辛い思いをしてほしくないから  
あえて、こんな言い方をしてるんだよ  
貴族の子供　「そうなんだ、ありがとうお母様  
貴族の母　「そ、そ、そうなのよ、さ、行きましょう」

33

ルキア あ、あ、あ・・・

パワー また、会いましたね、お元気ですか？

ルキア あ、あ、あの時は・・・

パワー っ！！ミカル！

ミカル パワー・・・

パワー ずっと・・・ずっと探していた・・・君に会えない切なさは・・・

何度オペラを見ても埋まるはずもない・・・

それでも・・・ずっと君を感じていた・・・

ミカル・・・もう・・・どこにも行かないでくれ・・・

永遠に・・・君と一緒にいたいんだ・・・

音楽…DREAM NEW

ケルプ ヴィクター様、お客様です

シャダイ お久しぶりです、ヴィクターさん

ヴィクター おお、これはシャダイさん

シャダイ 是非、呼び捨てでシャダイと

ヴィクター ……では私の事もヴィクターと

シャダイ ヴィクター、会っていただき光栄です

ヴィクター 私の方こそ、訪ねてきてくれてありがとうシャダイ

何かお困り事でも？

シャダイ 笑顔の再会で何よりですが、明るい話題ではありません

ヴィクター ミカル・・・の事でしょうか？

シャダイ はい、あれからどこへ行ったのか・・・この町を私なりに探し

てみましたが手がかりがありませんでした

ヴィクターであれば何かご存知かと思ひまして・・・

ケルプ ミカル様は隣の町にいます

シャダイ 隣の町ですか・・・どうりで・・・だが鉄道も通っていないこ

の地域では、隣といえどそれなりにかかりますね

ヴィクター 川を越えれば別の国というが、まさにあの町はこことは違う

この町以上に身分差別の激しい町だ

ケルプ ミカルさんは現在、娼婦の館に身を寄せているようです

シャダイ そ！そこまでご存知なのですか

ではミカルの生い立ちもご存知のはず

ミカルは幼少時に当時の神父に性的虐待にあっています

そのせいで心には深い傷が・・・

その神父の代わりやってきたシスターマリアによって

なんとか人並みに過ごせるようになったのです

それでも一度、礼拝者の男性が冗談でミカルの肩に手を回した

だけで過呼吸をおこし、医者までが駆けつける騒ぎになった事

もご存知でしょう

それを、そこまで知っていて何故？命にかかわる事ですよ！

ヴィクター 娼婦の館ではルキアという女性が

ミカルの面倒をみているそうです

娼婦として働いているわけじゃない

シャダイ、あなたもベルゼブ出版の話はご存知ですか？

あなたはあの一件で何かできる事はありましたか？

シャダイ いえ、私には何も・・・

ヴィクター それは私も一緒です、私は確かに出版社の副編集長だ

だが、今はミカルの一ファンに過ぎない  
シャダイ そう・・・ですね、申し訳ありません

あなたとミカルには他人とは思えない繋がりを感じたもので  
すから・・・しかし、深く干渉する事ができない想い・・・  
解るような気がします・・・

ヴィクター・・・ミカルの作品は読みましたか？

シャダイ ええ、だがあれはミカルの作品ではない、内容がまるで・・・  
辛かったろうに・・・名前を変えただけ不幸中の幸いなのかも  
かもしれませんが

ヴィクター あれでミカルの本名まで使っていたら私も行動を起こしまし  
たよ・・・

シャダイ・・・ここにオリジナルがあります

シャダイ なっ・・・

ケルプ ヴィクター様はずっとミカル様を見守っておいでです。

どこで執筆していたのかも・・・

見守る事しかできないヴィクター様の苦しみ

どうかご察してください

ヴィクター ケルプ、いい

ケルプ 失礼致しました

シャダイ その原稿を読ませていただいてもよろしいでしょうか・・・

ヴィクター どうぞ・・・

シャダイ・・・LOVE&PEACE・・・

音楽…竹田の子守唄

この時、私の胸に、幾つもの記憶がよみがえってきた  
私はどこへ行こうとしていたのか、時にうなされる夢、  
数多の後悔

なぜ・・・この町の人々が懐かしく感じたのか・・・  
ミカルの作品は・・・私の過去と未来を記していたのだ・・・

ヴィクター どうかしましたかシャダイ

シャダイ・・・この・・・物語を・・・読んで・・・それでも・・・

ミカルをこの出版社から・・・  
送り出す事はできないのですか・・・

ヴィクター 登場人物が最後まで笑えるようになるまでは・・・

作品は時として、誰かの過去や未来をも暗示する

あの山を越えて、何処とも分からぬ町にたどり着いた旅人シャ  
ダイよ

小さな国の王は、どのような過去を旅しても

これからはずっと、約束を果たす事はできませんか？

そんな事はない、己が強くなれば・・・

シャダイ どちらかを選ぶのではない

両方選び、どちらも守れる強さを持てば、過去も未来も変えら  
れる

きつと、きつと変えられる！

ヴィクター その方法とは？

シャダイ・・・愛に・・・怯えぬ事だ・・・

・・・自分を・・・愛してくれる人達の想いに・・・

怯えぬ事だ・・・

ヴィクター もし言葉が風となり、この世界を越えて誰かに届くのならば、君は何を伝える？

シャダイ ごめんなさい・・・ごめんなさい！・・・いなくなつて・・・

ごめんなさい！

ごめんなさい・・・みんな・・・ごめんなさい！

・・・ごめんなさい・・・

いつも・・・ありがとう・・・みんな・・・ありがとう・・・

ありがとう・・・

ヴィクター みんな・・・君を愛していた・・・君が好きで一緒にいたのだ・・・

・・・君は独りじゃない・・・

シャダイ、ミカルに笑顔を伝えてくれ

シャダイ はい・・・会いに行つてきます・・・

音楽・DREAM5

・・・ヴィクター・・・

次に会つた時は肩でも揉ませてください

ヴィクター 馴れ合いはごめんだ・・・君よりも・・・

私はミカルが可愛くて仕方がない

シャダイ ははは・・・行つてきます

ヴィクター エリーザ、これで良かったかね

エリーザ ありがとうございます

ヴィクター 人にはそれぞれ役目がある・・・か・・・

私も大役を仰せつかったものだ

エリーザ 君が伝えるわけにはいかないものかね

私が言つても聞いてくれるとは限らないですからね

人は発信者であり、伝達者であり、表現者です。

しかしどれもメッセンジャーである事に変わりはありません

伝えたい事は各々の表現で・・・

WE ALL 私たちはいつも、繋がっているのですから

・・・シャダイ、ミカル、伝える事をどうか怯れないで・・・

ヴィクター もう一つ、聞いていいかね、私は、あとのくらい生きられる？

ケルプ ヴィクター様・・・

ヴィクター そう長くない事くらい分かっている

エリーザ だが、もう一仕事残っているのでは

さあねえ、人の寿命は己の心に左右されますからね

伝えちゃつた以上、まだまだ逝けない人もいる

ヴィクター、あなたは伝えたい事はもう誰にも、なんにもない

ですか？

ヴィクター はっはっは・・・私も十分臆病者だな

ケルプ、いつもありがとう

そばにいてくれるだけで私は幸せだ

ケルプ ヴィクター様・・・これからも、そばにいさせてください

私も、それだけで幸せです。

ヴィクター はっはっは、まだまだ逝くわけにはいかな、一仕事どころか

まだまだありそうだ

エリーザ みんな子供ですね

音楽… LIKE A CHARIOT 　　ゝ時には戦車のごとくゝ

ダネル　　シャダイ、隣町まで行くんだろ？

このダネルが乗せてってやるよ

愛馬のシルバーも準備OKだ！ハイヨーシルバー！ヒヒー

シャダイ　君は背中にマラの刺青を彫った男、ダネル

ダネル　　マリアだよ、マリア、惚れた女の名前さ！

シャダイ　君には忠告してくれる友達はいないのか？

ダネル　　失敬な事をいうな、みんな俺の覚悟にびびっちゃまって、誰も話

かけないだけさ

シャダイ　いや、そういう事を言ってるのだが

ダネル　　アンタの人生は尊敬してるぜ、しっかりつかまってな

行こうぜ兄弟！

シャダイ　その表現でいくと私は弟になってしまいうからやめてくれ

ラファエル　シャダイ！

ラファエル　　ラファエル・・・ごらん・・・虹だよ

ラファエル　うん・・・いつの日か一緒に見たね・・・

シャダイ　うん・・・ウリエルとガブリエルにも伝えてくれ

君達といた時間は、とても懐かしく幸せな気持ちになれた

遠い昔、夢の中で出会った人達と再会できたように

嬉しかった

ラファエル　私も・・・合った時から・・・出逢った時から・・・

シャダイ　夢の中の話だ、分からなかったら申し訳ない

でも言わせてくれ

「あの時は置いていってごめんな」

「君達の事が好き過ぎて、僕、一人で突っ走っちゃった！  
ごめん！」

ウリエル　　じゃあ今回は連れていってくれるんですよね

シャダイ　ウリエル！

ウリエル　　僕も、誰かを守れなかった夢を見ます

でも置いて行かれた事は怒ってません

ただ、それでも、無理やりにも着いて行かなかった自分に腹

が立つんです

ガブリエル　あのさ！私、一度あんたを後ろから蹴ろうとしたよね！

シャダイ　ああガブリエル、小指がしびれるくらいで済んだよ

ガブリエル　もっと前に！ずっとずっと前に、蹴ろうとしたんだよ！

遠ざかる誰かの後ろ姿を蹴ろうとしたんだよ！

でも・・・蹴れなかった・・・そんな夢を見た事がある

だから、あの時、あんたを蹴って、思いっきり助走までつけて

蹴り飛ばして・・・

どうだった？

シャダイ　　さうつつつつげえスカツとした！

シャダイ　　なんだそりゃ！

ガブリエル　　ざまあみろ！口には出さなくても「ふざけんっ！」って

想ってるヤツもいるんだよ！

シャダイ　　分かった！もうみんな着いて来い！

ダネル　　ブラザーちょっと待っててくれ、5ケツはあまりに多すぎだ

シャダイ　　じゃあお前が降りろ！兵士は走って着いてこい！

ダネル　　そりゃあねーぜブラザー

シャダイ　　黙れ、THE歩兵　将棋では歩、チェスではポーンの兵隊

ダネル ああ・・・ああ！そう俺！ポーン！そしてあんたはキング！

その言葉でなんか思い出した！OK！

どこまでも走って付いていくぜ！！次は・・・次は見失わねえ！

音楽・・・フェードアウト

執事クルト パワー様

パワー 通せ

執事クルト その手にあるものは・・・

パワー ・・・・そうだ・・・

執事クルト 正気ですか？それは・・・

パワー 正気に戻ったんだ・・・俺は・・・今までが正気じゃなかった

執事クルト そんな事ありません！どうかお考え直してください、私は・・・

パワー ミカルが・・・俺を正気に戻してくれたんだ、

もう俺は迷わない

執事クルト ・・・・ここを通すわけには参りません・・・

パワー なら、俺はこの道を行く

執事クルト もう・・・届かないのですね・・・

パワー パワーパパ なんの騒ぎだ

パワー 父さん、話があります

パワー パワーパパ なんだ、パワー

パワー ミカルと・・・結婚します

パワー パワーパパ なんだと！そんな勝手を許すと思うのか！

パワー あなたが許す、許さないの問題ではありません

私が自分の意思で、ミカルと結婚したいのです

パワーパパ あんな孤児だぞ、由緒正しい家系に生まれたお前が、

パワー あんな汚れた血を持つ孤児と結婚してどうするのだ！

ミカルは孤児ではありません

肉体の血は繋がってはいなくても

魂で結ばれた沢山の家族がいる・・・

ミカルを孤児というのなら・・・本当の孤児は私です・・・

私には、俺の人生を勝手に決め付ける他人しかおりません！

汚れているのは・・・俺の血の方だ！

よくぞそこまで恩知らずな事をいえたな

パワーパパ おい、こいつを屋敷からつまみ出せ

執事クルト ・・・・っ・・・

パワーパパ クルト！聞こえなかったのか？こいつを・・・

パワー ここには、あなたが今までにおこなった横領、不正を示した告発書があります

パワーパパ 貴様！

執事クルト 申し訳・・・ございません・・・

パワー もうすぐ、警察がやってきます、父さん、

あなたはおそらくこの町から追放となる、

それでも、私があなただの後を継ぎます・・・

父の失った信頼は、ここまで育てていただいた息子の私を取り戻します

それまでは・・・ここから、あなたに支援させてください、

生活には困らないように、遠くからでもずっと支え続けます

それが、育ててくれたあなたにできる恩返しです・・・

私はどこで間違えたのか・・・気付くのが遅かったようだな・・・

パワーパパ クルト、身支度を・・・

執事クルト ・・・・かしこまりました・・・

パワー 父さん・・・

パワー パパ クルトこれまでご苦労であった・・・パワー

結婚式は見れそうにないが、幸せにな

パワー ありがとうございます、では、プロポーズ行ってきます

執事クルト え？

パワー パパ ん？

パワー え？

パワー パパ ゴホン・・・まだ了承はもらってないのか

パワー はい、でも、再会した時に「永遠に一緒にいたい」と言ったら

ありがとうございますって言ってもらえたので

パワー パパ ありがとうございます・・・だけだろ？

パワー え？え？

執事クルト ありがとうございます・・・だけです

パワー パパ だよ、ね・・・お前は確かに私の子だ・・・

パワー パパ 肝心なところが抜けている・・・

パワー え？え？あ・・・本当だ・・・お礼言われただけだ・・・

### 音楽…SOUL MATE

ルキア 初恋って実らないのね、まあ、私なんか恋をしても、

誰も本気で好きになつてくれないだろうし

生きててもつままないな、嫌な人生・・・

ミカル ねえ、ルキア、私ね、ずっと、ずっと

自分はなんで生きてるんだろう、どうして生まれてきたんだろう

うって考えながら本を書いてきた

この世界を見渡したら、みんな、みんな独りぼっち

あの編集者さんも、あの貴族も、みんな本当はその事に気付いてるんだね

みんな独りになるのが怖いから、誰かをいじめて、見下して・・・

でも本当は、自分はこんなにすごいんだぞって

こんなに偉いんだぞって、

心では必死になって叫んでるんじゃないかと思う

私の本を見てくれた、聞いてくれた人達は

みんな笑顔になってくれたの

みんな仲良くなってくれたの

私ってすごいんだよ

私の本でね、大きな教会の土地まで買っちゃったんだよ

私の本ってすごいんだよ

「いつか私を主人公にしてねって」

友達の契約までしてもらえたんだよ・・・

すごいでしょ、私の人生・・・

すごいでしょ・・・私のおとうさんはモーターツアルトなんだよ

自慢の家族がいっぱい、いっぱい、いるんだよ

たった一人だけど、大切な、大切な友達がいるんだよ

今は・・・生まれてきて・・・本当に良かったって思っ

てるよ

・・・読んだよ、私が主人公の物語・・・

でも、つまんなかった

全然ダメ、全然綺麗にかけてないし、全然ダメ・・・やり直し

あり、ルキア、このままずっと・・・散々言うつもりでしょ

ずっとずっと認めずに、けなし続けるんだね・・・

・・・そしたら・・・ずっとずっと契約は続いていくもんね・・・

ずっとずっと私のそばにいてくれるんだね・・・

ひどいよ・・・ひどいよ・・・でもありがとう・・・ひどい

よ・・・

でも、でも・・・ありがとう・・・ルキア

ルキア  
・・・ごめんね、ミカル、あなたには・・・家族がいるんだものね・・・

いい大人が・・・こんな子供を・・・契約なんかで縛っちゃかわいそうか・・・

ありがとう、綺麗に書いてくれて・・・

本当はね・・・生きていて良かったって・・・思ったよ

私・・・「こんなにまぶしく生きてるんだ！」って思えたら、

負けてられない！

人に、世の中に、自分に負けてられない！

ミカル・・・グッジョブ！

ルキアの物語ね、今までで一っ番、簡単に書けたよ

はあ？

ミカル  
だって、ルキアをそのまま書くだけでよかったから

ルキア  
ああっとうう・・・ミカル・・・

ミカル  
また・・・会いに来るね・・・

ルキア  
・・・行くの？・・・

ミカル  
うん・・・黙って出てきちゃったから・・・みんな心配してる

ルキア  
私がいなくて、みーんな独りになっちゃうから

私がいなくてね！

ガブリエル  
ミカル！

ウリエル  
ミカル！

ラファエル  
ミカル

ルキア  
ちようどお迎えが来たよ

ミカル  
ミカル

ミカル  
おとうさん・・・

一同  
え？

ミカル  
ごめんなさい・・・夢に出てくる人と、一緒だったから・・・

ミカル  
そうか・・・実は・・・私の夢の中にも、君に似た娘がいたよ

ミカル  
黒髪で青い瞳、私とお母さんにそっくりの・・・

ミカル  
よく・・・おとうさんを叩く？

ミカル  
うん・・・

ミカル  
笑いながら怒って・・・よく叩くお母さん？

ミカル  
うん・・・

ミカル  
叩かれても・・・笑いながら・・・イタズラを・・・やめ

ない

おとうさん？

ミカル  
うん・・・待たせてごめんな・・・

ミカル  
おとうさん・・・たくさんの人をいっぱい待たせちゃったか

ミカル  
ら・・・

ミカル  
これからは・・・おとうさんがみんなを待つよ・・・

ミカル  
いつまでも・・・いつまでも・・・

ミカル  
・・・ただいま・・・

ミカル  
おかえりな・・・

ラファエル  
おかえりなさい！！！！

ミカル  
痛い！なぜ叩く？

ラファエル  
わかりません、なぜか無性に・・・もう一発！



シャダイ 痛い！しかし！私も無性に君を抱きしめたくなくて・・・  
ラファエル 触るな！

シャダイ 痛い！それでも僕は負けません！

ラファエル シャラッ！

シャダイ 痛い！

ミカル あはははは、おとうさん、おかあさん、大好きだよ

おかえりなさい

音楽…ポリリウムアップダウンフェード

シャダイ 昨日の事が昨日の話とは限らない

今日の事が今の現実とも限らない

毎日を過ごしていれば、夢のような今日もあれば、

昨日のような明日もあるはずだ

何を持って幸せとを感じるかは人それぞれだが

昨日を愛して、今日を生き、明日を目指して進めば

生きていてよかったと想える日も来るはずだ

旅は・・・終わらない・・・

エリーザ そのこのあなた、とても勇ましい魂をお持ちですね

まるで銀色の翼を生やし、ドラゴンに立ち向かう英雄のよ

う・・・

もしよろしければ名前を教えてくださいませんか？

シャダイ 私は・・・昨日の名前は覚えていません・・・でも・・・

モーツァルトだと嬉しいなあ・・・

音楽…おとうさんはモーツァルト

ミカル おとうさん！大好き！

おとうさんはモーツァルト HAPPY END